

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

斜面

2024.4.28

テレビニュースに違和感を抱いた。「―した矢先でした」と。「矢先」を「直後」の意味で使うのは誤用ではな

いか。辞書を引く。大辞泉は「物事が始まろうとするその時」。ただし、広辞苑と大辞林では「その直後」とも記していた◆広辞苑に「直後」と加筆されたのは、1983年発行の第3版からだ。その当時から使われ方が変わってきたのだろう。いまは「直後」の意味で使う人の方が多いとの調査もある。「固執する」意味の「こだわり」が「思い入れ」で使われるのと同様だ◆辞書にどんな言葉を掲載し、改訂では何を削り、語釈はどう変えるのか。ふだん何げなく使っている辞書の編集者の苦労を描いたNHKの連続ドラマ「舟を編む」私、辞書つくります〜」が終わった。三浦しをんさんの原作で2012年に本屋大賞を受賞して映画にもなっている◆印象的な場面がある。新人の女性編集者が「恋愛」の語釈に「異性同士」とあるのを見て、同性間の恋愛もあるのに、と違和感を持つ。恋愛の語釈を変更するかどうか。編集部は激論になる。「(定着するか)10年は観察し判断する」という言葉が重い◆再び辞書を引く。広辞苑は「恋愛」に「男女」とあり、大辞林と大辞泉は最新版から「男女」が消えた。ドラマにこんなせりふがある。「人間がいつ何を手放し何を獲得したのか。紙の辞書にはその記録が詰まっている」。男女限定はもう手放している。人は恋愛の新語釈を獲得しつつある。

斜面

2024.5.3

日本語は難しい言葉だらうか。ひらがな、カタカナ、漢字の表記がある。漢字には何通りも読み方があり、敬語

の使い方は複雑。日常会話の理解には、フランス語なら5千語を覚えればいいが、日本語は2万2千語が必要との説もある◆一方、英語なら10個以上ある母音は5個しかない。動詞の活用は簡単で、性や数、時の区別にさほど気を払わなくて済む。実は、話し言葉の日本語は意外に優しいのだそうだ。認知言語学者の荒川洋平さんが著書「日本語という外国語」で指摘している◆このところ日本語で話しかけてくる外国人観光客が増えた。香港から来た女性の流ちょうさに、どこで学んだのか尋ねると「アニメです」と言う。留学経験はなく初めての来日で「日本のアニメが大好きで何度も見た」。言葉は案外そんなことから身に付いていくのかもしれない◆箕輪町で「日本語を教えない日本語教室」が始まったと、先週水曜日の本紙地域面に記事が載った。外国籍の住民に、そろばんや巻きずし作りなどの文化体験を通じて、社会につながる日本語に触れてもらう。正しい読み書きを強制しないのがルールだ◆好きや楽しいといった気持ちを大切にして、会話の力に近づきたい。異なるルーツを持つ人たちが地域で生活していくために必要な「やさしい日本語」を、教える側と教わる側で学び合い、広げていく機会にもなるのではないか。外国人とともに暮らしている時代、注目したい取り組みだ。

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2024. 5. 3

にほんごはむずかしいことばだろうか。ひらがな、カタカナ、かんじのひょうきがある。かんじにはなんとおりもよみかたがあり、けいごのつかいかたはふくぎつ。にちじょうはいわのりかいは、フランスごなら5せんごをおぼえればいいが、にほんごは2まん2せんごがひつようとのせつもある◆いっぽう、えいごなら10こいじょうあるぼいんは5こしかない。どうしのかつようはかんたんで、性やかず、ときのくべつにさほどきをはらわなくてすむ。じつは、はなしことばのにほんごはいがいにやさしいのだそうだ。にんちげんごがくしゃの荒川洋平さんがちよしょ「日本語という外国語」でしてきしている◆このところにほんごではなしかけてくるがいこくじんかんこうきやくがふえた。ほんこんからきたじよせいりゆうちようさに、どこでまなんだのかたずねると「アニメです」という。りゆうがくけいけ

んはなくはじめてのらいにちで「にほんのアニメがだいきでなんどもみた」。ことばはあんがいそんなことからみについていくのかもしれない◆みわまちで「日本語を教えない日本語教室」がはじまったと、せんしゅうすいようびの本紙ちいきめんいきじがのった。がいこくせきのじゅうみんに、そろばんやまきずしづくりなどのぶんかたいけんをつうじて、しゃかいにながるにほんごにふれてもらう。ただしよみかきをきょうせいしないのがルールだ◆すきやたのしいといったきもちをたいせつにして、かいわのちからにつなげた。ことなるルーツをもつひと**たち**がちいきでせいかつしていく**ため**にひつような「やさしいにほんご」を、おしえるがわとおそわるがわでまなびあい、ひろげていくきかにもなるのではないか。がいこくじんとともにくらしているじだい、ちゅうもくしたいとりくみだ。

太字や固有名詞などの漢字は原文のままです。

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

年 組 番 名前

斜面

2024.4.28

テレビニュースに違和感を抱いた。「―した矢先でした」と。「矢先」を「直後」の意味で使うのは誤用ではな

いか。辞書を引く。大辞泉は「物事が始まろうとするその時」。ただし、広辞苑と大辞林では「その直後」とも記していた◆広辞苑に「直後」と加筆されたのは、1983年発行の第3版からだ。その当時から使われ方が変わってきたのだろう。いまは「直後」の意味で使う人の方が多いとの調査もある。「固執する」意味の「こだわり」が「思い入れ」で使われるのと同様だ◆辞書にどんな言葉を掲載し、改訂では何を削り、語釈はどう変えるのか。ふだん何げなく使っている辞書の編集者の苦勞を描いたNHKの連続ドラマ「舟を編む」私、辞書つくります〜」が終わった。三浦しをんさんの原作で2012年に本屋大賞を受賞して映画にもなっている◆印象的な場面がある。新人の女性編集者が「恋愛」の語釈に「異性同士」とあるのを見て、同性間の恋愛もあるのにと違和感を持つ。恋愛の語釈を変更するかどうか。編集部は激論になる。「(定着するか)10年は観察し判断する」という言葉が重い◆再び辞書を引く。広辞苑は「恋愛」に「男女」とあり、大辞林と大辞泉は最新版から「男女」が消えた。ドラマにこんなせりふがある。「人間がいつ何を手放し何を獲得したのか。紙の辞書にはその記録が詰まっている」。男女限定はもう手放している。人は恋愛の新語釈を獲得しつつある。

① コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましょう。

② 【意見提示】 「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましょう。

③ 【展開】 あなたの意見の根拠を三つ書きましょう。

()

()

()

伝えたい順番

